



開発建設部

土木の日(11月18日)関連イベント

○観光とインフラ展

○沖縄の土木技術を世界に発信する会シンポジウム

○沖縄の土木技術を世界に発信する会シンポジウム

【観光とインフラ展】

11月15日(土)～16日(日)、サンエー那覇メインプレイスにおいて「観光とインフラ展」を開催しました。

観光客一千万人を目指す沖縄において、インフラ整備が如何に観光と関わり、観光振興に不可欠なものかを、わかりやすく、また、増える観光客のみならず県民にとって安心・安全、便利で質の高いインフラ整備の目指す姿を紹介しました。

今回の展示内容は、現在提唱している「観光客一千万人時代のインフラ整備」の6つのシナリオに沿って構成しています。

【展示内容】

1. インフラは観光資源
 - ① 海洋博公園
 - ② 首里城公園
 - ③ ピーチ
 - ④ 北部ダムツーリズム
 - ⑤ 離島架橋
 - ⑥ 沖縄観光の魅力をPR
2. 沖縄らしい魅力のある地域づくり
3. 国立劇場おきなわ、景観づくり、電線の地中化、空き家の再生
4. 交流拠点からの発信
5. 交通拠点とネットワークの構築
6. 港湾、ダム

- ① TEC FORCE、リエゾン、沖縄防災連絡会
- ② 適切な初動対応の確立
- ③ みなし、みち
- ④ 那覇空港、みなど、みち
- ⑤ 道の駅、進化する道の駅
- ⑥ 保全・再生技術の蓄積と活用



観光とインフラ展

会場には、2日間で約650人が来場され、多くの家族連れで賑わっていました。また、子供たちがインフラに興味を持つように、手作りの観光インフラシールを配布しました。

なお、アンケートでは、多くの方がとても分かりやすい内容になつておらず、インフラ整備が観光を支えていることが理解できたとの回答をいただきました。

11月19日(水)「沖縄における観光一千万人」構想の実現に向けたシンポジウムを開催(主催・土木学会西部支部沖縄会委員会)し、約280人が参加されました。

基調講演では、当局の尾澤次長から「沖縄における観光客一千万人時代のインフラ整備」と題して講演が行われ、沖縄における観光客一千万人時代を迎えるためには、観光施設や観光産業等による観光客の誘致だけでなく、約5割増加する観光客をきちんと受け入れることができます。そのための社会の構築が必要であり、観光客のみならず県民にとって便利で質の高いインフラ整備を実現していくとともに、観光とインフラの融合という新たな視点の導入が必要であることを示しました。

また、一般者や観光客に、楽しみながら観光とインフラの関係をわかりやすく示すとともに、インフラ整備の必要性や重要性の理解につなげていくため、「観光客一千万人時代のインフラ整備」のシナリオに基づく「沖縄観光インフラカード(仮称)」の発行を提案しました。続いて、沖縄県(観光・農水)、民間(観光)、NPO(エコツーリズム)のそれぞれ

【沖縄の土木技術を世界に発信する会シンポジウム 到来にむけて】



沖縄の土木技術を世界に発信する会シンポジウム

の立場からのテーマ講演では、「雇用の面からも観光客の平準化が必要」、「沖縄は安波ダムや知念岬公園など美しい景色がある。沖縄ダムツーリズムは魅力」、「水源開発による安定的な水供給、レンタカーの増加に対応した道路整備など、インフラは観光に有効活用されている。今後もハードとソフトの密な連携が必要」など、その後の意見交換では、「観光は幅広い、社会をつくっているそのものが観光である。今後戦略的に打ち出す必要があり、大学生など若い人が参画できる多様な仕組み、活躍できる場を設ける必要がある」、「若い人の力をどのように取り入れて行くべきかを考えていく必要がある」という意見がありました。